

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：33702

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531217

研究課題名(和文) 修学旅行のための教材開発の基礎研究

研究課題名(英文) Spadework of development of teaching materials for a school trip

研究代表者

林 知代(HAYASHI, TOMOYO)

岐阜女子大学・公私立大学の部局等・講師

研究者番号：70460483

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：修学旅行の学習では、コンピュータを利用した教材が利用されることは、少ないことが明らかになった。また「伝統産業」「民族芸能」「世界遺産」の分野の学習の定着が足りないことがわかった。そこで、二次元コードによる印刷物とデジタルアーカイブの連携を実施することにより、高校生が印刷メディアとタブレットPCやスマートフォンなどの各種端末の両方で利用できるように構成し、事前学習や事後学習、修学旅行中も多様な資料の利用が可能になった。

研究成果の概要(英文)：Learning of school trip that teaching materials using a computer is used, it became clear that little. I found out that settlement of learning of this field isn't enough, "Traditional industry" "folk entertainment" "the world's cultural and natural heritage" So it also became possible to compose and use various material for preliminary learning, ex post fact learning and during a school excursion so that a high school student could use it by both of print media and all kinds' terminal for Tablet PC and smart phone by putting cooperation of printed matter by a two-dimensional cord and a digital archive into effect.

研究分野：教育工学

キーワード：修学旅行 デジタルアーカイブ 教材

1. 研究開始当初の背景

修学旅行は、学校としては大きな行事であるにも関わらず、学習活動の観点からの学習支援教材としての学習環境は、整備が十分とは言えない。多くの高等学校が修学旅行に行くが、特別活動としての有効な素材・教材の提供・活用の方法が確立されていないのが現状である。本研究では、沖縄への修学旅行を例に次のような現状を研究の背景としてあげる。

(1) 修学旅行の事前・活動・事後の学習における教材の不足

学習指導要領では、「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」と示されており、特に、特別活動編では、「生徒の自主的な活動の場や機会を十分に考慮し、…単なる物見遊山に終わることのない有意義な旅行・集団宿泊的行事を計画・実施するよう十分に留意すること」「事前の学習や、事後のまとめや発表などを工夫し、体験したことがより深まるような活動を工夫すること」とされている。

また、平成18年度に改正された教育基本法では、「伝統と文化を尊重」が定められており、修学旅行においても配慮されるべきである。

修学旅行の学習活動は、事前学習・活動(旅行)・事後学習の3段階に分けらる。(図1)

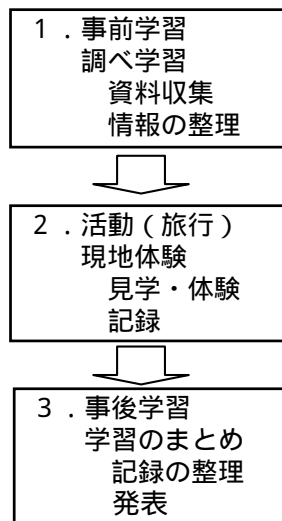


図1 修学旅行の学習活動

最初の学習段階である、事前学習では、旅行先やフリー研修の企画のための調べ学習が必要となる。資料の収集や情報の整理を行

われる。

次の学習段階である旅行中は、見学、体験、それらの記録などを行うことができる。最後の学習段階は、事後学習である。学習のまとめとして、記録の整理、発表を行うことができる。

これらの学習段階において利用される教材は、各学校で用意するしおり、観光用のガイドブックや旅行会社が用意した資料、インターネットの利用が中心となっている。沖縄の修学旅行では資料不足で学校も困っているのが現状である。

(2) 地域機関と教育関係機関が連携した修学旅行支援資料開発の必要性

学校が、遠方である沖縄の修学旅行用の資料を収集し、教材化することは困難であり、それを支援する機関等が必要である。修学旅行を受け入れる地域には、観光協会、観光コンベンションビューローなどの機関があるが、一般に教育機関との連携がなされていないのが現状である。

修学旅行を受け入れる地域機関と教育研究機関が連携し、教育的な背景を配慮した、学校の教師、生徒に素材・教材の利用を支援する情報提供が必要である。

(3) 修学旅行の学習活動のための新しい教材の構成の必要性

デジタル教科書の出現に代表されるように、教材のメディア環境が大きく変わってきている。修学旅行においても、事前学習・活動(旅行)・事後学習の段階毎に効果的なメディアを選択して教材を研究する必要があるのではないかと考える。

ガイドブックに代表される印刷メディアは、携帯情報端末に代表される通信メディアとの連携、さらにその先につながるデジタル・アーカイブとの連携が可能になってきた。図2に示したような、実物、体験、印刷メディア、通信メディア、デジタルメディア(デジタル・アーカイブ)

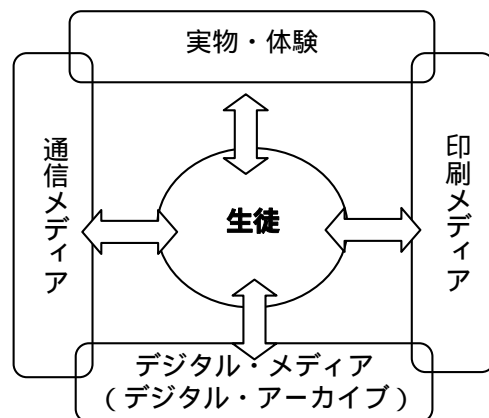


図2 教材環境

後藤忠彦編著、

デジタル・アーカイブの新しい研究の展開より引用

デジタル・アーカイブ)で構成された新しい教材環境の構築が修学旅行の学習環境においても必要である。

2. 研究の目的

修学旅行の学習活動の教材媒体として、実物・体験・印刷メディア、通信メディア、デジタルメディア(デジタル・アーカイブ)を捉え、その教材環境を開発し、活用の調査と学習活動での効果、今後の方向性について研究する。

3. 研究の方法

(1)理解度調査と事前調査の実施

本研究の対象とした、高校生の沖縄修学旅行の学び現状を調査するため、大学生を対象とした、沖縄についての理解度調査と高校教師を対象にした学習内容や教材についてのアンケート調査を行った。

(2)教材の開発と提供

岐阜女子大学で所蔵する15,000件を超える沖縄関連のデジタル・アーカイブズを活用し、「沖縄修学旅行おっらい」テキストとWEBサイトを制作し、沖縄に修学旅行にいかれる高等学校の教師や生徒に平成23年より提供してきた。

印刷物であるテキストは、修学旅行の手引きとして修学旅行中持ち歩くことを想定し、サイズに配慮する必要があった。そこで、「おっらい」はサイズをA5版で数十ページとし、各項目は約1/2ページ、写真(1枚~数枚)と要点のみを記載した。その中で、高校生が興味や関心をもった項目があれば、テキストに掲載されている二次元バーコードからアクセスすることで、デジタルアーカイブ内の関連資料を抽出できるようにし、高校生が印刷メディアとタブレットPCやスマートフォンなどの各種端末の両方で利用できるよう構成した。(図3)



図3 沖縄修学旅行おっらい

(3)事後調査の実施とコンクールの開催

教材を利用した高校の教員を対象に、利用状況についてのアンケート調査を行った。また、修学旅行や教材を利用した学習活動の成果を示す場としてコンクールを開催を行った。

4. 研究成果

(1)沖縄修学旅行の学習の状況の分析

沖縄に修学旅行に行く高校の学習状況を調査した。まず、学習時間の平均は、事前学習で9.17時間、事後学習にいったっては、2.59時間であった。修学旅行のための学習時間の確保は難しい状況にあることがわかった。

また、事前学習のテーマを調査したところ、平和をテーマにした学習は、94.59%とほとんどの高校で行っているが、その他のテーマについては学習して行かない高校がある事がわかった。(図4)

これらの調査から、現地の体験を事前・事後の学習で学習を積み重ねているという状況ではないことがわかってきた。

また、どのような教材が利用されているかを高校教員を対象に調査したところ、「旅行会社や観光協会等の提供資料」89.2%、「旅行ガイドブック」78.4%、「テレビ番組、市販のDVD、映画」70.3%という結果であった。また、「WEBサイト」「デジタル・アーカイブ」「アプリケーション」などのコンピュータを利用した教材が利用されることは、現状での修学旅行の学習では、少ないことが明らかになった。(図5)

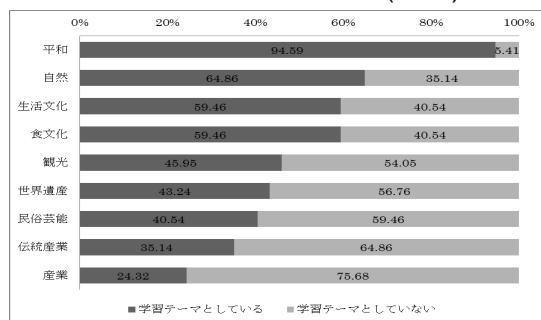


図4 事前学習のテーマ

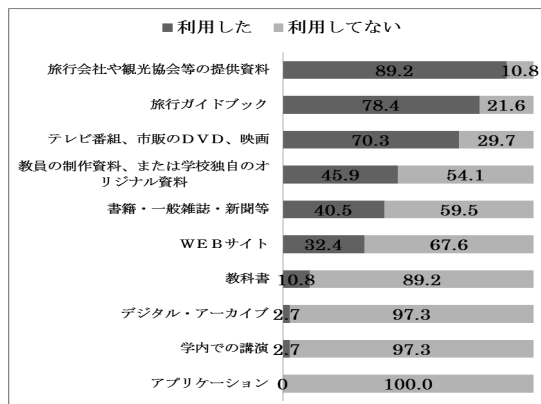


図5 利用教材 (%)

(3)学習者の沖縄理解度の把握

沖縄への修学旅行を経験した学生と、経験していない学生では沖縄を理解している分野に差があるかどうかを調査したところ、沖縄に行ったことがある学生は行ったことがない学生より、「観光」の分野で35.2%、「平和」の分野で34.0%の差があり、これらの分野では沖縄に修学旅行に行くことによって理解が向上していた。しかし、「伝統産業」「民族芸能」「世界遺産」の分野では、沖縄に行ったことがある学生でも80%近くが知らないと答えた。これらの分野については、修学旅行であまり学習されていないか、学習が定着されていないということが明らかになった。(図5)

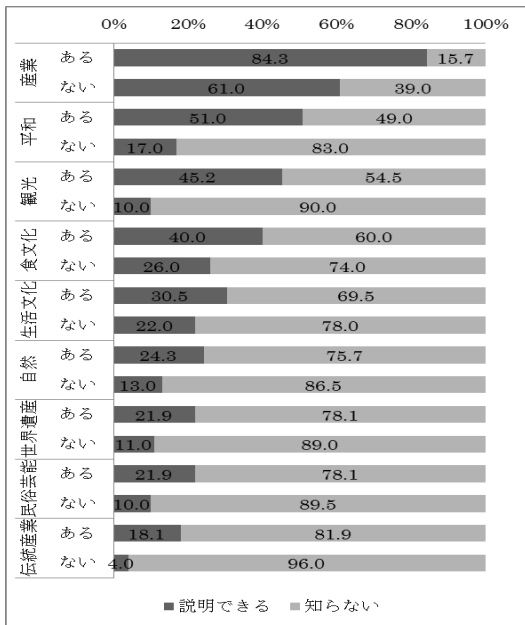


図5 理解度調査 分野別理解レベル (%)

(3)「沖縄修学旅行おっらい」の利用状況

沖縄修学旅行おっらいの、提供状況は次のとおりである。

- 平成 24 年 11,839 名 (58 校)
- 平成 25 年 11,424 名 (57 校)
- 平成 26 年 12,270 名 (57 校)

利用の現状を修学旅行中、事前学習、事後学習の3つの状況にわけて調査した。

事前学習では、90%の教員がテキストを利用したと回答し、多くの教員に利用されていることがわかった。(図3)

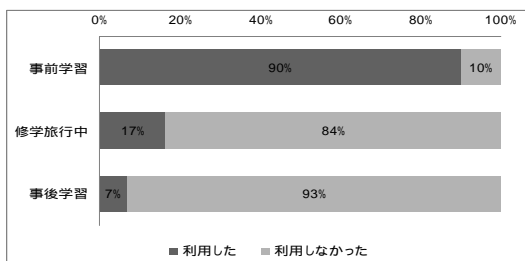


図6 学習状況毎のテキストの利用状況

テキストに掲載されている二次元バーコードからアクセスする学習方法についても、高校生へのスマートフォンの普及に伴い、生徒達は積極的に利用しているとの意見を教員から得ている。

しかし、事前学習以外の活動では、修学旅行中は17%、事後学習では7%という結果となり、あまり利用されていないことがわかった。(図6)

特に、事後学習での利用が少ない原因については、先の調査でわかったように、事後学習自体があまり行われていないことも要因の1つではないかと考えられる。この状況を打破するような教材や学習活動の提案が、今後の課題である。

(4)参加型教材への可能性

修学旅行における学習活動の活性化を目指し、修学旅行での学習活動の出口としてコンクールを開催した。岐阜女子大学が従来より行っている、デジタルアーカイブ普及のための活動であるデジタルアーカイブコンクールに“沖縄修学旅行おっらい部門”を設けた。また、コンクールの入賞作品の中から「おっらい」に適する題材を選定し、新しい教材として採用するようにした。このことにより高校生参加型の沖縄修学旅行の教材として開発を進めることが可能になり、高校生にとって、より身近な教材の構成への方向性が出てきた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

林知代, 沖縄修学旅行のための教材内容の検討, 岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.15 NO.4, 2014, pp21-28

加藤真由美 加治工尚子 林知代, 印刷メディアとデジタルアーカイブの連携による教材開発の課題～高校生のための沖縄修学旅行「おっらい」への適用～, 岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.16 NO.1, 2014, pp9-20

〔学会発表〕(計5件)

林知代 加藤真由美 佐藤正明, 沖縄修学旅行おっらいの利用結果とその問題点～3ヶ月間で1万5千人の高校生が利用～, 日本教育情報学会第28年会, 2013年8月25日26日, 聖徳大学

加藤真由美 長尾順子 加治工尚子 林知代 田中恵梨, 二次元コードで調べる沖縄修学旅行おっらいのデジタル・アーカイブの構成: 高校生の事前、旅行事後で利用(課題研究 中等教育のデジタル化の課題と実践), 日本教育情報学会第

28年会, 2013年8月25日26日, 聖徳大学

林知代 加藤真由美 加治工尚子, 沖縄修学旅行のための教材の方向性, 日本教育情報学会第29年会, 2013年11月9日10日, 沖縄女子短期大学

林知代 加藤真由美 加治工尚子, 沖縄修学旅行のための教材の方向性2, 日本教育情報学会第30年会, 2014年8月9日10日, 京都市立芸術大学

林知代 加藤真由美 加治工尚子 沖縄修学旅行おっらいの利用結果と今後の可能性, デジタルアーカイブ研究会, 2015年2月10日, 岐阜女子大学

〔その他〕

ホームページ等

沖縄修学旅行おっらい ホームページ

<http://dac.gijodai.ac.jp/ohrai/>

沖縄修学旅行おっらい 動画集

<http://ohraigwu.com/okinawa/move/>

沖縄修学旅行おっらい アプリ

<https://itunes.apple.com/jp/app/id875735567>

沖縄修学旅行おっらい お知らせ

<http://www.gijodai.jp/highschool/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 知代 (HAYASHI, Tomoyo)

岐阜女子大学 文化創造学部・講師

研究者番号: 70460483

(2) 研究分担者

後藤 忠彦 (GOTO, Tadahiko)

岐阜女子大学 文化創造学部・教授

研究者番号: 30021306

(3) 連携研究者

加藤 真由美 (KATO, Mayumi)

岐阜女子大学 文化創造学部・講師

研究者番号: 70614452

(3) 連携研究者

加治工 尚子 (KAJIKU, Naoko)

岐阜女子大学 文化創造学部・講師

研究者番号: 40599130